

## 講義名・担当教員

マクロ経済学・西山慎一

## 時間割

前期 月曜 3 限

## 講義の目的

本講義では中級程度のマクロ経済学の内容を取り扱う。マクロ経済学は、一国経済の集計指標（GDP、物価、金利、失業率等）を主な分析対象とし、各経済指標の相互関連性を科学的に考察・分析する研究領域である。本講義の目的は、1) 長期的な国民所得、失業率、インフレーションの決定に関するマクロ経済学の理論、ならびに 2) 短期的な総需要、総供給、景気変動に関するマクロ経済学の理論を習得することである。（ただし、マクロ経済学の他の理論のうち、経済成長論、マクロ経済政策論、マクロ経済学のミクロ的基礎付け等については、「上級マクロ経済学」で取り扱う。）なお、各種資格試験に対応できるよう、本講義で取り扱うマクロ経済学の内容については、特殊なものは扱わず、できるだけ標準的な内容を取り扱うことを心掛ける。

## 成績評価法

- ・宿題（25%）、期末試験（75%）で評価する。
- ・AA(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満：不合格)

## 講義の進め方

- ・テキスト（下記参照）の内容を中心に講義を進めるが、適宜、補足的・展開的な内容についても講義において扱う。
- ・学期中、講義の進捗状況に応じて計3回程度の宿題を課す。
- ・期末試験を行う。

## オフィスアワー

火曜日  
12:00-13:00  
経済学部棟 622 号室

## 連絡先

講義時に指定する。

## 予習・復習について

- <予習>
- ・テキストの該当範囲について事前に読んでおくことが望ましい。
- <復習>
- ・講義内容および講義資料をもとに復習することが望ましい。

## その他（連絡事項）

- ・講義は日本語で行う。宿題と期末試験は日本語で出題し、解答は日本語か英語とする。
- ・宿題は指定された期日までに提出すること。遅れた場合は提出放棄とみなす。
- ・期末試験は学期最後の講義中に行うが、学期最後の講義に都合により出席できない者は速やかに、遅くとも期末試験の一週間前までに講師まで連絡すること。連絡なく欠席した場合は、救済措置は講じない。

## この講義を受講するために必要とする知識

高校卒業程度の代数・解析の知識は必要となるが、それ以上の数学的知識は前提としない。また、経済学入門程度の知識があれば講義を理解する上で有用であるが、受講の前提とはしない。

## テキスト・参考文献

- ・テキスト：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学Ⅰ〈入門篇〉[第3版]』東洋経済新報社、2011年（訳者：足立英之、地主敏樹、中谷武、柳川隆）。
- ・参考文献：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー 入門経済学』東洋経済新報社、2008年（訳者：足立英之、石川城太、小川英治、地主敏樹、中馬宏之、柳川隆）（講師注：経済学入門レベルの教科書であるが、上記テキストを理解する上で有用。購入は特に求めない。）

## 第1回：オリエンテーション

### 講義の内容

1. オリエンテーション
  - ・本講義の目的ならびに概要
  - ・講義の進め方
  - ・テキストの指定
  - ・成績評価について
2. 経済学の基礎
  - ・経済学の十大原理
  - ・関数の概念・考え方
  - ・グラフの読み方

## 第2回：マクロ経済学概観

## 講義の内容

1. 科学としてのマクロ経済学
  - ・マクロ経済学の対象とは何か？
  - ・マクロ経済学の手法とは何か？
  - ・モデルの構築と修正：科学的アプローチ
  - ・ミクロ経済学的思考とマクロ経済モデル
2. 需要曲線と供給曲線：ミクロ経済学の基礎
  - ・需要曲線とは何か？
  - ・供給曲線とは何か？
  - ・個別の財・サービスの価格はどのようにして決まるのか？

○この講義ではテキスト第1章をベースとする。

## 第3回：マクロ経済学において用いる経済指標

### 講義の内容

#### 1. マクロ経済活動の測定

- ・国内総生産：所得，支出，生産
- ・GDP 算出上のルール
- ・実質 GDP と名目 GDP
- ・GDP デフレーター

#### 2. 物価の測定

- ・消費者物価指数（CPI）
- ・CPI と GDP
- ・その他の物価指標

#### 3. 失業の測定

- ・失業率とは？
- ・失業率の計算方法

○本講義は，テキスト第2章をベースとする。

## 第4回：国民所得の長期的決定理論

## 講義の内容

1. 財・サービスの総生産の長期的決定要因
  - ・生産要素
  - ・生産関数
  - ・財・サービスの供給
2. 所得分配の長期的決定要因
  - ・要素価格
  - ・企業の要素需要
  - ・国民所得の分配
3. 財・サービスの総需要の長期的決定要因
  - ・消費の長期的決定
  - ・設備投資の長期的決定
  - ・政府支出の長期的決定
4. 財・サービスの需要と供給の長期的均衡
  - ・財・サービス市場の均衡
  - ・金融市場の均衡
  - ・貯蓄の変化
  - ・投資需要の変化

○本講義は、テキスト第3章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 5 回：失業の長期的決定理論

### 講義の内容

1. 離職，就職と自然失業率：その定義
2. 職探しと摩擦的失業
3. 賃金の硬直性と待機失業
  - ・最低賃金法
  - ・労働組合と団体交渉
  - ・効率賃金
4. 失業のパターン
  - ・失業継続期間
  - ・失業のトレンド
  - ・労働市場における参入と退出

○本講義は，テキスト第 6 章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第6回：貨幣と物価の長期的関係Ⅰ

## 講義の内容

1. 貨幣とは何か
  - ・ 貨幣の機能
  - ・ 貨幣の種類
  - ・ 貨幣量のコントロール
  - ・ 貨幣量の測定
2. 貨幣数量説
  - ・ 取引と数量方程式
  - ・ 貨幣需要関数と数量方程式
  - ・ 貨幣, 物価, インフレーション
3. インフレーションと利子率
  - ・ 実質利子率と名目利子率
  - ・ フィッシャー効果
  - ・ 実質利子率：事前と事後

○本講義は、テキスト第4章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第7回：貨幣と物価の長期的関係Ⅱ

### 講義の内容

1. 名目利子率と貨幣需要
  - ・貨幣保有のコスト
  - ・将来の貨幣と現在の物価
2. インフレーションの社会的コスト
  - ・想定されたインフレーションのコスト
  - ・想定外のインフレーションのコスト
3. ハイパーインフレーション
  - ・ハイパーインフレーションのコスト
  - ・ハイパーインフレーションの原因

- 本講義は、テキスト第4章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。
- 本講義終了後に宿題を課す。

## 第8回：景気変動：短期のマクロ経済分析

## 講義の内容

1. マクロ経済学における長期と短期
  - ・ 短期と長期の相違
  - ・ 総需要－総供給モデル
2. 総需要
  - ・ 総需要としての数量方程式
  - ・ 総需要曲線
  - ・ 総需要曲線のシフト要因
3. 総供給
  - ・ 長期の総供給曲線
  - ・ 短期の総供給曲線
  - ・ 短期から長期へ
4. マクロ経済安定化政策
  - ・ 総需要へのショック
  - ・ 総供給へのショック

○本講義は、テキスト第7章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 9 回：短期の総需要 I

### 講義の内容

1. 財市場と IS 曲線
  - ・ケインズの交差図
  - ・利子率, 投資と IS 曲線
  - ・財政政策と IS 曲線
2. 貨幣市場と LM 曲線
  - ・流動性選好理論
  - ・所得, 貨幣需要と LM 曲線
  - ・金融政策と LM 曲線
3. 短期均衡：財市場と貨幣市場の均衡条件

○本講義は, テキスト第 8 章をベースとする.

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる.

## 第 10 回：短期の総需要 II

## 講義の内容

1. IS-LM モデルによる景気変動の説明
  - ・ 財政政策, IS 曲線, 短期均衡
  - ・ 金融政策, LM 曲線, 短期均衡
  - ・ 金融政策と財政政策の相互作用
  - ・ IS-LM モデルにおけるショック
2. 総需要の理論としての IS-LM モデル
  - ・ IS-LM モデルから総需要曲線へ
  - ・ 短期と長期の IS-LM モデル
3. 大恐慌
  - ・ 大恐慌の発生理由：IS 曲線へのショック
  - ・ 大恐慌の発生理由：LM 曲線へのショック

○本講義は、テキスト第 9 章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 11 回：総供給

### 講義の内容

1. 総供給の理論：4つのモデル
  - ・硬直賃金モデル
  - ・労働者錯誤モデル
  - ・不完全情報モデル
  - ・硬直価格モデル
2. インフレーション，失業，フィリップス曲線
  - ・総供給曲線からフィリップス曲線を導出
  - ・インフレ率の上昇と低下の二つの原因
  - ・インフレーションと失業の短期的トレードオフ
  - ・ディスインフレーションと犠牲率

○本講義は，テキスト第 11 章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 12 回：開放経済

## 講義の内容

1. 資本と財貨の国際循環
  - ・純輸出の役割
  - ・対外純投資と貿易収支
2. 小国開放経済の貯蓄と投資
  - ・資本移動と世界利子率
  - ・長期モデル
  - ・政策の貿易収支への影響
3. 為替レート
  - ・名目為替レートと実質為替レート
  - ・実質為替レートと貿易収支
  - ・実質為替レートの決定要因
  - ・名目為替レートの決定要因

○本講義は、テキスト第 5 章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 13 回：開放経済下の総需要 I

### 講義の内容

1. マンデル - フレミング・モデル
  - ・資本の完全移動を伴う小国開放経済
  - ・財市場と IS 曲線
  - ・貨幣市場と LM 曲線
2. 変動為替レート下の小国開放経済
  - ・財政政策
  - ・金融政策
  - ・貿易政策
3. 固定為替レート下の小国開放経済
  - ・固定為替レートはどのように機能するか
  - ・財政政策
  - ・金融政策
  - ・貿易政策

○本講義は、テキスト第 10 章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 14 回：開放経済下の総需要 II

## 講義の内容

1. 利子率格差
    - ・ カントリーリスクと為替レートの予想
    - ・ マンデル - フレミング・モデルにおける利子率格差
  2. 変動為替レート制か固定為替レート制か
  3. 物価水準の変化を伴うマンデル - フレミング・モデル
- 本講義は、テキスト第 10 章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。
- 講義終了時点で余裕があれば、学期間で扱った内容の質疑応答の時間とする。

## 第 15 回：期末試験

### 講義の内容

- これまでの 14 回の講義の内容についての試験を行う。
- 試験時間は 90 分とする。
- 教科書・ノート等の持ち込みは不可。(クローズド・ブック方式)